

平成12年10月15日

ふじのきいせき

藤ノ木遺跡発掘調査現地説明会

三条市教育委員会

1 はじめに

三条市教育委員会では、国道403号三条北バイパス道路建設工事に伴い、新潟県より委託を受けて、三条市大字井栗^{いぐさ}地内にある藤ノ木遺跡の発掘調査を8月から11月までの予定で行っています。この調査により発見された建物跡や当時の生活用具などの実物を現地で見学していただき、先人が残してくれた地域の財産である遺跡の保護にご理解をいただければ幸いです。



2 遺跡の概要

藤ノ木遺跡は平安時代、室町時代の遺跡です。調査された地区からは、室町時代（14世紀から15世紀）の遺構、遺物が検出されています。特に注目されるのは、コの字型の区画溝を伴う屋敷跡で、建物や井戸が発見されています。出土例が少ない鉄鍋のほか、中国から輸入された青磁・白磁や国内産陶器、木製品、鉄製品、石製品などの多種類の遺物が発掘されました。

3 発見された室町時代の屋敷跡

屋敷地

発掘された屋敷地は、幅 1.5m、深さ 0.7m、一辺の長さが 40～50m程度の大きさのコの字型に囲む溝で区画されています。



発掘された室町時代の屋敷跡

建物

当時の建物には、基礎を用いず、地面に直接穴を掘り、その中に柱を立てたものがあり、この方法で立てられた柱をもつ建物跡を「掘立柱建物跡」と呼んでいます。

藤ノ木遺跡の掘立柱建物跡は、コの字に区画された内部に、井戸・大型土坑などとともに建てられています。最大で、10メートル四方の掘立柱建物跡があり、柱穴の中には、当時の建物の柱が直立したまま残っていました。現在3地点に6棟ほどが発見されていますが、そのすべてが同時に立っていたわけではありません。



建物の柱跡

井戸

直径約1m、深さ約1mの円筒型をしたものが20基ほど見つかっています。その中には井戸枠と考えられる木組みの遺構を伴うものも見つかっています。木組みの周囲にはヨシがめぐらされていたようです。4本の支柱には、長方形のホゾ穴が開けられていて、木材がきちんとはめ込まれた状態で見つかりました。



井戸枠

また、井戸を埋め戻す際に、ウメとヨシをいっしょに埋める習慣があったらしく、井戸の中からウメの種とヨシが見つかっています。



大型土坑

大型土坑

直径3m、深さ1.5mを越す大型の土坑で、すり鉢状に掘られています。9基ほどが発見されていますが、井戸跡のように砂層まで掘り下げ、底面に川原石などを配置したものもあり、大型の井戸跡の可能性もあります。直径が6mを越す大規模ものもあります。

出土遺物には、青磁や珠洲焼、越前焼、などの陶磁器類、古銭(永楽通宝など)、木製ホソ、下駄、漆器、鉄鍋などがあり、いずれも室町時代の遺物と考えられます。



青磁

また、この土坑の下から地震の液状化現象による噴砂跡も見つかっています。これは、室町時代以前にも、この地域に大規模な地震があったことを示す災害史上重要な発見です。

4 発掘された暮らしの品

井戸や溝などから当時使われていた生活用具などが出土しています。中国から輸入された青磁・白磁・天目茶碗などの高級磁器や現在の石川県珠洲市で生産された珠洲焼や越前焼、瀬戸美濃焼などの国内各地で生産された陶器などが出土しています。

この時代の食器は焼き物ではなく漆器が使われていて、完全な形で出土したものもあります。

その他に下駄、曲物、杓、古銭、種子類や供養塔である五輪塔の一部など当時の人々の暮らしぶりを語る多くの種類の遺物が発掘されています。



漆器



下駄



古銭

5 鉄鍋と大崎鋳物師

大型土坑から鉄鍋がほぼ完全な形で出土しています。平安時代までは煮炊きには素焼きの土器が使用されましたが、この頃には鉄鍋が使用されたといわれています。しかし、鉄は再利用が可能なことなどから遺跡からの出土例はわずかで、ここでの出土は貴重なものです。

また、市内大崎地域に、この時代に鋳物作りの職人である大崎鋳物師がいました。古文書には越後国の蒲原郡、古志郡の鍋の生産販売権をこの大崎鋳物師がもっていたとされています。この鉄鍋は大崎鋳物師によるものである可能性が高く、実態がよくわかっていない大崎鋳物師や当時の生産や流通などの三条の産業史を考える上で重要なものです。

今後も国道403号バイパス工事に伴い、谷地遺跡、吉津川遺跡、新田川遺跡の発掘調査が行われます。新たな発見にご期待ください。



井戸から出土した鉄鍋



鉄鍋